



とよかわ歴史検定2016 問題（一般の部）



©いなりん

豊川市教育委員会

問 1

縄文時代後期～晩期にかけて、土偶や石棒などを用いた祭祀や精神文化が発達したが、写真にあるような多数の土偶が出土した市内の遺跡は、次のうちどれか。

- (1) 天井平遺跡（東上町）
- (2) 稻荷山貝塚（平井町）
- (3) 麻生田大橋遺跡（大橋町）
- (4) 水神平遺跡（上長山町）



問 2

日本で最初の図書館といわれる「芸亭」を開き、奈良時代に三河国司を務めた人物は、次のうちどれか。

- (1) 淡海三船
- (2) 石上宅嗣
- (3) 大江定基
- (4) 藤原俊成

問 3

豊川市域に関わる江戸時代の地誌とその著者の組合せとして、正しいものは次のうちどれか。

- (1) 『三河国二葉松』 林花翁
- (2) 『宮嶋伝記』 平松喜春
- (3) 『三河雀』 佐野監物
- (4) 『統叢考』 渡辺富秋

問 4

豊川市の誕生と昭和時代の合併を説明した下記の文章の（ ）に当てはまる組合せとして、正しいものは次のうちどれか。

昭和（ ① ）年に豊川町と牛久保町、国府町、八幡村が合併し、豊川市が誕生した。昭和 30(1955)年には（ ② ）、同 34 年には（ ③ ）が豊川市に合併した。

- (1) ①16(1941) ②宝飯郡御油町 ③八名郡三上村
- (2) ①16(1941) ②八名郡三上村 ③宝飯郡御油町
- (3) ①18(1943) ②八名郡三上村 ③宝飯郡御油町
- (4) ①18(1943) ②宝飯郡御油町 ③八名郡三上村

問 5

市内の中世から近世にかけての交通に関する説明として、誤っているものは次のうちどれか。

- (1) 東海道のルートは一時、赤坂から本野原を通り豊川宿(古宿町)あたりで豊川を渡るルートに変更されていた。
- (2) 執権北条泰時が本野原に道標のため柳を植樹したことが、13世紀半ばに成立した『東関紀行』に記載されている。
- (3) 江戸時代には豊川の舟運の課税のために、江島に分一番所が設けられた。
- (4) 江戸時代後期には豊川稻荷や鳳来寺、秋葉山に通じる信仰の道が整備された。

問 6

市内の神社では、胸に太鼓をつけた 1 人と、小太鼓をつけた 2 人の計 3 人による「笹踊り」が祭礼で演じられるところがあるが、この踊りを行わない神社は、次のうちどれか。

- (1) 豊津神社（豊津町）
- (2) 豊川進雄神社（豊川西町）
- (3) 若宮八幡社（伊奈町）
- (4) 杉森八幡社（赤坂町）



牛久保の若葉祭の笹踊り

問 7

市内では現存する銅鐸の出土例が 8 例あるが、そのうち大正 13(1924) 年に一箇所から 3 個が同時に発見され、現在東京国立博物館所蔵となっている銅鐸(右の写真)は、次のうちどれか。

- (1) 伊奈の銅鐸
- (2) 広石の銅鐸
- (3) 千両ちぎりの銅鐸
- (4) 豊沢の銅鐸



銅鐸の発見状況を再現した写真

問 8

市内には、『延喜式』により平安時代中期には存在していたことが確認できる神社が 3 つあるが、これに該当しない神社は、次のうちどれか。

- (1) 御津神社（御津町広石）
- (2) 菟足神社（小坂井町）
- (3) 砥鹿神社（一宮町）
- (4) 八幡宮（八幡町）

問 9

市内でもっとも古い石鳥居がある神社は、次のうちどれか。

- (1) 御津神社（御津町広石）
- (2) 菟足神社（小坂井町）
- (3) 砥鹿神社（一宮町）
- (4) 豊川進雄神社（豊川西町）

問 10

県下最古といわれる在銘板碑である三尊種子板碑(右の写真)がある場所は、次のうちどれか。

- (1) 長沢町
- (2) 上長山町
- (3) 下長山町
- (4) 御津町豊沢



問 11

東三河で最も古いといわれる芭蕉句碑がある場所は、次のうちどれか。

- (1) 関川神社境内 (赤坂町)
- (2) 国府観音境内 (国府町)
- (3) 姫街道から西明寺に向かう道沿い (八幡町)
- (4) 姫街道から八幡宮に向かう道沿い (八幡町)

問 12

かつて稲荷神社とよばれ、宝暦年間(1751～1764年)の頃に神社の狐が豊川稲荷へ婿入りしたという言い伝えがある神社は、次のうちどれか。

- (1) 伊知多神社 (市田町)
- (2) 大坂神社 (金沢町)
- (3) 五社稲荷社 (小坂井町)
- (4) 西島神社 (西島町)

問 13

金沢町の神明社に関する説明として、正しいものは次のうちどれか。

- (1) 江戸時代末期から明治時代の初め頃に祭礼の余興として歌舞伎がはじまり、境内にはかつて歌舞伎の舞台として使用された芝居小屋(農村舞台)が残されている。
- (2) 社殿前の広場の手前にある昭和18(1943)年に建てられた一対の灯籠には、「子孫繁栄」と刻まれてる。
- (3) 神社に残る最も古い棟札は明治時代のものだが、江戸時代にはすでに神社が存在したと考えられる。
- (4) 境内には、金沢村生まれのホトトギス派の俳人富安風生ふうせいの句碑がある。



神明社

問 14

上野 2 丁目の上野古墳群の説明として、誤っているものは次のうちどれか。

- (1) 上野古墳群は全て円墳である。
- (2) 5 号墳は直径 24 メートルと規模が大きく、^{なてあな} 竪穴式石室からは鉄製大刀や管玉など比較的豊富な副葬品が検出された。
- (3) 上野古墳群にはかつて 9 基の古墳が存在していたが、現在残るのは 1 号墳のみである。
- (4) 上野古墳群は、古墳時代後期に盛んに造られた群集墳の中でも古い時期のものである。

問 15

豊川西岸を流れる松原用水に関する説明として、誤っているものは次のうちどれか。

- (1) 松原用水は、永禄 10 (1567) 年に吉田城主酒井忠次が八名郡橋尾村の豊川で堰を造ったのが始まりと伝えられる。
- (2) 元禄 4 (1691) 年の大規模な洪水で豊川の流路が変わったため、元禄 6 年に堰を橋尾村から松原村に移築した。
- (3) 宝暦年間 (1751～1764 年) には、用水の下流住民が干ばつを防ぐために水路の拡幅を吉田藩に願い出て許されるも、上流域住民の反対により工事が進められないなど、江戸時代を通じて上・下流域住民の間でたびたび水争いがあった。
- (4) 松原用水が完成した頃、堰が大雨のたびに決壊したため、下流域の大村 (豊橋市大村町) の 8 人の世話人が人柱となって堰を守ったという昔話がある。

問 16

牧野城に関する説明として、誤っているものは次のうちどれか。

- (1) 牧野城は、戦国時代の東三河で中心的な役割を果たした武将牧野一族が最初に築いたとされる城である。
- (2) 平成の初め頃まで西側の土塁と堀が残っていたが、城跡を含む周辺地域で行われたほ場整備事業によりその全てが失われ、現在当時の面影をしのぶものは残っていない。
- (3) 平成 4・5 年に行われた発掘調査で出土した土器の特徴などから、城の存続年代は 15 世紀初めから 16 世紀初頭と考えられ、『牛久保密談記』(元禄 14 (1701) 年に著された東三河の郷土史料) に記された年代と一致することが分かった。
- (4) 城の平面形はやや台形状の長方形で、その南と東辺で城の入口と考えられる遺構が確認されている。

問 17

豊川西町の豊川進雄神社で行われる奉納^{つなび}綱火 (県指定無形民俗文化財) に関する説明として、誤っているものは次のうちどれか。

- (1) 毎年 7 月 20 日前後の金・土・日曜日に行われる例大祭の 2 日目夜に綱火は奉納される。
- (2) 綱の中央で一旦停止し先方と後方に別れる「行き別れ」や、次々と発射する「追い綱火」をはじめとする 7 種類の煙火が披露される。
- (3) 鳥居前から拝殿までの約 100 メートルの間に 1 本の麻綱を張り、東西で順番に綱火を奉納する。
- (4) 綱火の製法は秘伝で、東西それぞれの本会所の人達に口伝で継承され、各々の技が競われている。

問 18

西豊町のトヨタテック本社社屋・倉庫(国登録文化財・右の写真)は昭和3(1928)年の建築であるが、当初の建物の使用用途は、次のうちどれか。

- (1) 電話中継所
- (2) 発電所
- (3) 養蚕組合事務所
- (4) 海軍集会所



トヨタテック本社社屋と倉庫

問 19

豊川稲荷・^{みょうこん}妙巖寺に関する説明として、正しいものは次のうちどれか。

- (1) 境内奥の狐塚には、祈願成就のお礼として奉納されたキツネの焼物が多数安置されている。
- (2) 豊川稲荷の江戸時代の建物には彫刻を施されたものが多く、そのほとんどが二代立川和四郎富昌と弟子の宮坂常蔵による立川流彫刻である。
- (3) 国指定重要文化財の2体の木造地藏菩薩立像は、よく似た姿であり、同時期に同じ作者により制作されたと考えられている。
- (4) 江戸時代後期には参詣者の増加により門前に酒店・料理店が軒を並べるようになったが、近くに御油・赤坂・吉田宿があったため宿泊施設は設けられなかった。

問 20

豊川海軍工廠に関する説明として、誤っているものは次のうちどれか。

- (1) 豊川海軍工廠は、昭和14(1939)年12月15日に艦船や航空機で使用する機銃およびその弾丸の生産工場として開庁した。
- (2) 御津町広石の御津山の山頂には、戦時中に豊川海軍工廠の防備のために建設された砲台が存在し、昭和20年8月7日の空襲でB29の編隊を迎撃したものの、ほとんど効果がなかったという。
- (3) 豊川市野球場や豊川市陸上競技場がある豊川公園一帯の桜は、工廠によって植樹されたのが始まりで、今もかつて植樹された桜が一部残っている。
- (4) 豊川稲荷境内から出た西側にある豊川海軍工廠戦没者供養塔は、終戦の翌年の昭和21(1946)年に工廠生存者を中心に結成された八七会により建立された。

問 21

牧野^{なりきだ}成定の廟と成定の菩提寺である光輝院に関する説明として、誤っているものは次のうちどれか。

- (1) 牧野成定の廟がある場所は、もと三本松とよばれ、かつて光輝院の境内であった。
- (2) 牧野成定の廟の墓碑は、貞享元(1684)年に曾孫が建てたものである。
- (3) 越後長岡の牧野家歴代城主は、先祖をあがめる気持ちが大変強く、熊野神社(下長山町)・八幡社(牛久保町)・光輝院などに土地やお金の寄進をしている。
- (4) 光輝院はもともと牛久保城の近くにあったが、牧野民部丞成勝が一色城築城の際に現在地に移転したと伝えられる。

問 22

篠東町の篠東神社神職の長男として生まれ、明治 2(1869)年に小竹園という私塾を篠東町に開き、国府村に設立された修道館や豊橋藩校時習館皇学寮で講師を務めた人物は、次のうちどれか。

- (1) 本多^{ただす}匡
- (2) 草鹿^{くさか}砥^{かのぶ}宣^{のぶ}隆^{たか}
- (3) 山本^{くんこう}群^{ぐん}鴻^{こう}
- (4) 渡辺^{わたべ}富^{とみ}秋^{あき}

問 23

小坂井町の菟足神社に関する説明として、誤っているものは次のうちどれか。

- (1) 菟足神社は縄文時代の貝塚があった場所にあり、境内西側には貝殻の破片が散乱している。
- (2) 菟足神社には、今川氏の禁制文書や徳川家康の制札など、戦国時代を中心とした中世後半における神社周辺地域の支配状況を知ることが出来る史料が残っている。
- (3) 菟足神社所蔵の大般若経(国指定重要文化財)は、その奥書^{おくがき}から、安元 2(1176)年から治承 3(1179)年に藤原宗成と研意智によって書写されたと考えられている。
- (4) 菟足神社南方約 100 メートルの水田から発見されたと伝わる梵鐘(県指定有形文化財)の銘文から、この銅鐘が製作された応安 3(1370)年の頃には、菟足神社が「菟足大明神」とよばれていたことが分かる。

問 24

伊奈町の若宮八幡社に関する説明として、誤っているものは次のうちどれか。

- (1) 第 3 代伊奈城主本多正時が社殿再建の時に植えたという言い伝えがある境内のイヌマキ(市指定天然記念物)は、拝殿の西手前と東手前にあり、いずれも雄株である。
- (2) かつて若宮八幡社にあり、戦後盗難により今は見るができなくなった銅鐘には、第 3 代伊奈城主本多正時の時代である明応 6(1497)年に奉納されたという旨の銘文が刻まれていた。
- (3) 昭和 2(1927)年の郷社昇格を記念して、本多家の子孫から歴代城主が合戦の際に使用したと伝えられる面頬^{めんぼお}(市指定有形文化財)が奉納された。
- (4) 境内の伊奈天神社社殿(市指定有形文化財)は、第 3 代伊奈城主本多正時が「歴世子孫尊崇」の神として祀ったのが始まりといわれ、寛永 10(1633)年に第 6 代本多忠俊により再建されたものである。

問 25

御津町御馬^{おんま}の引馬^{ひくま}神社に関する説明として、正しいものは次のうちどれか。

- (1) かつては引馬野権現とよばれていたが、明治時代の神仏分離政策により引馬神社と改称された。
- (2) 境内には斎藤茂吉の筆跡による「引馬野阿礼之崎」と刻まれた石碑がある。
- (3) 8 月の祭礼で行われる七福神踊りは、七福神の面と衣装を身につけた 7 人によるもので、弁財天にたぶらかされるように笛や太鼓にあわせて面白おかしく踊る。
- (4) 寛政 9(1797)年に奉納された算額(県指定有形民俗文化財)の額面には、奉納の由来と東三河・西遠江・南信州の当時著名であった和算家の住所・師弟関係などが墨書されている。

問 26

御津町赤根の法住寺が所蔵する木造千手観音立像(国指定重要文化財)の写真は、次のうちどれか。

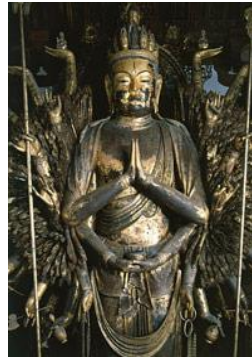
(1)



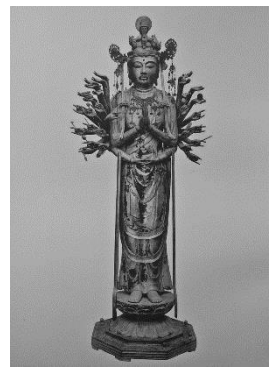
(2)



(3)



(4)



問 27

御津町赤根の萩原神社の祭神である萩原芳信が、文明 2(1470)年に家臣の反逆にあい自刃したと伝わる場所は、次のうちどれか。

- (1) ごぜん林
- (2) ごさい林
- (3) びぜん林
- (4) びんご林

問 28

御津町広石の大恩寺にある絹本着色王宮曼荼羅図(国指定重要文化財)に関する説明として、正しいものは次のうちどれか。

- (1) 大正 7(1918)年の旧国宝指定時から元での制作とされてきたが、絵画史研究の進展により現在では朝鮮の高麗で制作されたものとみられている。
- (2) 徳川家康の祖父の松平清康が寄進したと伝えられる。
- (3) この絵画は、阿弥陀経の冒頭部分に縁起として説かれる^{まがだ}摩竭陀国王舎城の悲劇をあらわしたものである。
- (4) 市内に所在する、唯一の国指定重要文化財の絵画である。

問 29

御津町金野の^{ちゅうせん}仲仙寺の境内入口にある山門は、かつて別の場所にあったと伝わるが、その所在場所の変遷として伝えられている順番は、次のうちどれか。

- (1) 伊奈城(伊奈町)→東漸寺(伊奈町)→浄宝寺(御津町広石)→仲仙寺
- (2) 伊奈城(伊奈町)→安養寺(篠束町)→松沢寺(御津町金野)→仲仙寺
- (3) 茂松城(御津町広石)→東漸寺(伊奈町)→浄宝寺(御津町広石)→仲仙寺
- (4) 茂松城(御津町広石)→安養寺(篠束町)→松沢寺(御津町金野)→仲仙寺

問 30

為^{ためとう}当町の稲荷神社で行われる 4 月の祭礼で、神意によりその年の農業や養蚕の状況を様々な作り物で飾り付けて表し(右の写真)、その内容からその年の気象や作柄を予想し、農民が農業経営の参考とする風習の名称は、次のうちどれか。



- (1) 花占い
- (2) 花の記
- (3) 花の撓
- (4) 花の暁

問 31

江戸時代の赤坂宿に関する説明として、正しいものは次のうちどれか。

- (1) 赤坂宿の東と西の入口には見付が設けられ、浮世絵などに物々しい雰囲気といやばの屋敷のような建物として描かれている。
- (2) 現在の赤坂町紅里の信号交差点の南には、問屋場も兼ねていた本陣彦十郎家があった。
- (3) 「宿村大概帳しゆくそんたいがいちよう」によると、赤坂宿の人口の男女比は、御油宿と同様に男の人数が多い。
- (4) 現在の赤坂保育園付近にあった赤坂代官所は、当初は赤坂町東裏の龍泉院あたりに遠江国中泉代官所赤坂出張陣屋として設けられ、元禄 2(1689)年にこの場所に移され、寛政 9(1797)年に代官所に改められた。

問 32

国府町の守公神社しゆこうには、応永 23(1416)年に製作された銅鐘(市指定有形文化財・右の写真)が所蔵されているが、この銅鐘の銘文に記されている室町時代の神社周辺地域の名称は、次のうちどれか。



銅鐘

- (1) 府中
- (2) 国府宮
- (3) 国府
- (4) 古国府

問 33

国府村が江戸時代中期の老中・田沼意次おきつぐ(遠江相良藩主さながら)の領地になった時、領界を示すために建てられた「従是南相良領」と刻まれた石碑(傍示石)がある寺院と、田沼陣屋から移して作られた石垣がある神社の組合せとして、正しいものは次のうちどれか。

- (1) 国府観音(傍示石)・守公神社(石垣)
- (2) 国府観音(傍示石)・大社神社(石垣)
- (3) 高膳寺(傍示石)・守公神社(石垣)
- (4) 高膳寺(傍示石)・大社神社(石垣)

問 34

旧東海道を御油から赤坂方面に進むと目にする順番として、正しいものは次のうちどれか。

- (1) 御油のマツ並木→東林寺→浄泉寺→杉森八幡社
- (2) 東林寺→御油のマツ並木→大橋屋→正法寺
- (3) 御油のマツ並木資料館→御油のマツ並木→浄泉寺→関川神社
- (4) 御油のマツ並木資料館→東林寺→大橋屋→長福寺

問 35

御油のマツ並木(国指定天然記念物・右の写真)に関する説明として、誤っているものは次のうちどれか。

- (1) 江戸時代には御油宿境から赤坂宿境まで約 650 本のマツが植えられており、これは現在の倍以上の数である。
- (2) 街道の管理は周辺の村々に命じられていたが、マツ並木の管理は御油宿のほかにも広石村(御津町広石)と赤根村(御津町赤根)も担当していた。
- (3) 太平洋戦争末期には全国で木材と燃料の確保のため多くのマツが伐採されたが、御油のマツ並木は地元住民らの尽力により守られ、終戦後には国の天然記念物に指定された。
- (4) 昭和 47(1972)年に地元住民らで御油松並木愛護会が結成され、昭和 50 年には 219 本という大々的な補植が行われた。



御油のマツ並木

問 36

現在は住宅地にもなり、かつては長沢松平氏の居城であった城跡は、次のうちどれか。

- (1) 長沢城跡
- (2) 登屋ヶ根城跡
- (3) 岩略寺城跡
- (4) 萩城跡

問 37

八幡町の三河国分寺跡(国指定史跡)に関する説明として、誤っているものは次のうちどれか。

- (1) 大正 11(1922)年に国史跡の指定を受けた学術的な価値の高い遺跡であり、現在、豊川市により史跡保護を目的として史跡の公有地化事業が進められている。
- (2) 発掘調査により、寺の敷地は築地塀に囲まれ、その東寄りに南大門・金堂・講堂が南北に一直線上に並び、西寄りに塔が位置していたことが分かった。
- (3) 発掘調査で出土した瓦の分析から、主要な建物のうち塔が先行して建てられたとみられ、10 世紀以降に建物が廃絶し、衰退していったようである。
- (4) 現在、三河国分寺跡の史跡指定地内にある曹洞宗寺院の国分寺は、奈良時代に創建された三河国分寺が現在まで続いたものである。



三河国分寺跡空中写真(平成 24 年撮影)

問 38

八幡町の西明寺は、大江定基が六光寺を開いたのが始まりで、その後最明寺、西明寺と寺名が改められたと伝わるが、最明寺に改められた時に関係したとされる人物は、次のうちどれか。

- (1) 藤原俊成
- (2) 北条時頼
- (3) 水野駿河守
- (4) 徳川家康

問 39

三河国府跡に関する説明として、誤っているものは次のうちどれか。

- (1) 三河国府の所在地については、国府町にある守公神社周辺(的場遺跡)と白鳥町にある総社周辺(白鳥遺跡)の2つの説があったが、平成3年以降に行われた発掘調査で、白鳥遺跡がその所在地であることが明らかとなった。
- (2) 平成7～9、17年度の調査で、国府において最も重要な施設である国庁の跡が、総社の東に隣接する曹源寺とその周辺で検出された。
- (3) 国庁跡の発掘で「国府」と記された墨書土器が出土したことから、ここが三河国府の跡であることが証明された。
- (4) 一般の集落遺跡ではほとんど出土しない硯や印、墨書土器などが出土している。



三河国庁跡正殿跡の発掘調査状況

問 40

八幡町の三河国分尼寺跡(国指定史跡)の出土品は、次のうちどれか

(1)



(2)



(3)



(4)



問 41

市田町出身と伝えられる、長篠の合戦で活躍した鳥居強右衛門勝商すねえもんかつあきの木像と顕彰碑がある場所の組合せとして、正しいものは次のうちどれか。

- (1) 松永寺(木像) ・ 赤塚山(顕彰碑)
- (2) 松永寺(木像) ・ 城山(顕彰碑)
- (3) 伊知多神社(木像) ・ 赤塚山(顕彰碑)
- (4) 伊知多神社(木像) ・ 城山(顕彰碑)

問 42

市内に伝わる力寿の伝説に関する説明として、誤っているものは次のうちどれか。

- (1) 力寿は美しく歌舞に優れた赤坂村の娘で、三河の国司大江定基に愛されたが、若くして病にかかり亡くなった。
- (2) 財賀町の力寿の碑は、安永 5(1776)年に財賀寺の住職祖如が力寿の伝説を後世に残そうと建立したもので、碑の文章の作成は祖如の兄で豊後国(大分県)岡藩の近侍隊長であった加治光輔に依頼したという。
- (3) 力寿の碑(財賀町)の碑文によれば、力寿の死を悲しんだ大江定基が夢で阿弥陀如来のお告げを受け、死んだ力寿の舌を切って陀羅尼山の峰に埋め、一堂を建てて阿弥陀如来を祀り、力寿山舌根寺を開いたという。
- (4) 赤坂町の長福寺の裏山には、力寿の墓と伝えられる自然石が石塔の一部とともに建っている。



力寿の碑

問 43

財賀町の観音山山頂で、昭和 40(1965)年頃に陶器と銅板製の筒に収められた紙本朱書経(奈良国立博物館蔵)が出土したといわれるが、その奥書に記された地名からこの經典が書写されたと考えられる場所は、次のうちどれか。

- (1) 三河国中条郷
- (2) 三河国篠束郷
- (3) 三河国度津郷
- (4) 三河国豊川郷

問 44

萩町の富士神社と庚申寺のはじまりに関する伝説を順に並べた次の(1)から(4)について、誤っているものはどれか。

- (1) 寛永 9(1632)年、下賀茂神社の進餅用に使っていた裏の川の水が濁り、神威を汚す恐れがあるということで、南の山麓の「中村」の地に井戸を掘ることにした。
- (2) 村人が井戸を掘り進めていくと地中から牛頭天王の霊像が現れたので、下賀茂神社末社の富士社に安置した。
- (3) 下賀茂神社の社守の夢に、井戸を掘り進めていた時に現れた霊像がでてきて、「富士王明神とともに神田の浄地を選んで遷座せよ。四民とともに五穀と神田を護らん」と告げた。
- (4) 社守がお告げを受けた翌日、中村の井戸から白蛇が現れ、村人を導いて現在の庚申寺のあたりで消えた。これに恐れをなした村人は堂を建てて神護山庚申寺とし、一段下がったところに富士王大権現を遷座して富士神社とした。



富士神社

問 45

萩町の龍源寺は、明応年間(1492～1501年)に尾張から来た^{しゅうてい}周鼎和尚が寺を中興し、曹洞宗に改めたと伝えられる。この周鼎和尚は文亀2(1502)年に遠州の大洞院に移り、その後^{あんぎや}行脚先で村人を苦しめていた2匹の龍を降伏させ、感謝した村人から寺の寄進を受け、これを三河龍源寺の寺号を移して柝淵山龍源寺としたという。この柝淵山龍源寺があるところは、次のうちどれか。

- (1) 現在の岩手県花巻市
- (2) 現在の岩手県一関市
- (3) 現在の宮城県登米市
- (4) 現在の宮城県大崎市



木造宗鼎仲易肖像
(龍源寺蔵)

問 46

砥鹿神社の奥宮に関する説明として、正しいものは次のうちどれか。

- (1) 奥宮本殿には、里宮と異なる^{おおなむちのみこと}大己貴命が祀られている。
- (2) 本宮山上および周辺には、^{あらはばき}荒羽々氣神社をはじめとする末社が5社鎮座している。
- (3) 1月15日の早朝に、奥宮拝殿でその年の作物の豊凶を占う宝印祭が行われる。
- (4) 砥鹿神社奥宮の^{しゃそう}社叢(県指定天然記念物)は、昔から神域として保護されてきたため、クスノキの巨木が林立している。

問 47

1月の第2日曜日に、はんにゃさま(市指定無形民俗文化財)とよばれる、大木町の大木進雄神社が所蔵する大般若経(市指定有形文化財)の転読会が行われる寺院は、次のうちどれか。

- (1) 松源院(上長山町)
- (2) 宝円寺(上長山町)
- (3) 大樹院(大木町)
- (4) 西漸寺(大木町)

問 48

大木町を流れる帯川は、ホタルの生息地として市の天然記念物に指定されているが、この川に生息するホタルの種類は、次のうちどれか。

- (1) ゲンジボタル
- (2) ヘイケボタル
- (3) ヒメボタル
- (4) スジクロボタル



帯川のホタル生息地

問 49

本宮山登山道の 39 町目あたりには、登山者がその窪みに足を入ると疲れが軽くなるという岩(右の写真)があるが、昔この場所と石巻山(豊橋市)に足を置いて髪を洗ったという言い伝えが残っているのは、次のうちどれか。

- (1) 天狗
- (2) 弘法大師
- (3) でいだらぼっち
- (4) 山姥



問 50

東上町の炭焼平 14 号墳で出土した鳥鈕蓋付台付壺(県指定有形文化財・右の写真)に関する説明として、正しいものは次のうちどれか。

- (1) 窯を使って高温で焼き上げられた土師器はじきである。
- (2) 鈕(つまみ)を含めた高さは 73 センチで、この種類の中では比較的大型のものである。
- (3) 本例のように、蓋に鳥型の鈕(つまみ)を持つ台付壺が出土する地域は、今のところ東海地方に限られている。
- (4) 5 世紀の中頃に作られたと考えられ、昭和 27(1952)年の発掘調査で古墳の墳裾あたりから出土した。



鳥鈕蓋付台付壺